

もし、新潟豪雨が斐伊川流域で発生したら

～ 昭和47年7月の斐伊川の洪水並となる
宍道湖水位(H.P+2.5m)が再現される可能性があります ～

近年の異常気象により、全国各地において記録的な集中豪雨に見舞われ被害が多発しております。記憶にも新しい7月の新潟豪雨、福井豪雨でもこれまで経験のなかった規模の豪雨により甚大な被害がもたらされました。

斐伊川流域においては、昭和47年7月豪雨以降、32年間幸いなことに大きな水害を被ることなく今日に至っております。

しかしながら、今回の7月の豪雨は、斐伊川で昭和47年に経験したものと同様の梅雨期の豪雨であり、また、近年の異常気象下では、いつこのような豪雨が起こってもおかしくありません。

そこで出雲河川事務所では、新潟豪雨が斐伊川流域で発生したと想定し、その時に斐伊川流域がどのような出水になるのかを試算しました。

今回、水害の危険性を再認識していただくために試算の結果を公表いたします。

同時提供先 : 島根県県政記者会
松江市政記者クラブ
出雲市政記者クラブ

問い合わせ等

国土交通省出雲河川事務所

(技)副所長 おさかだ 小坂田

調査設計課長 わが 和賀

電話番号 0853-21-1850

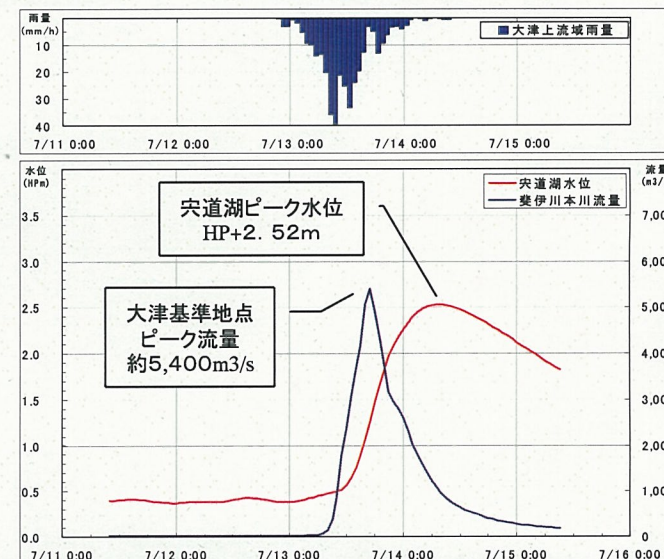
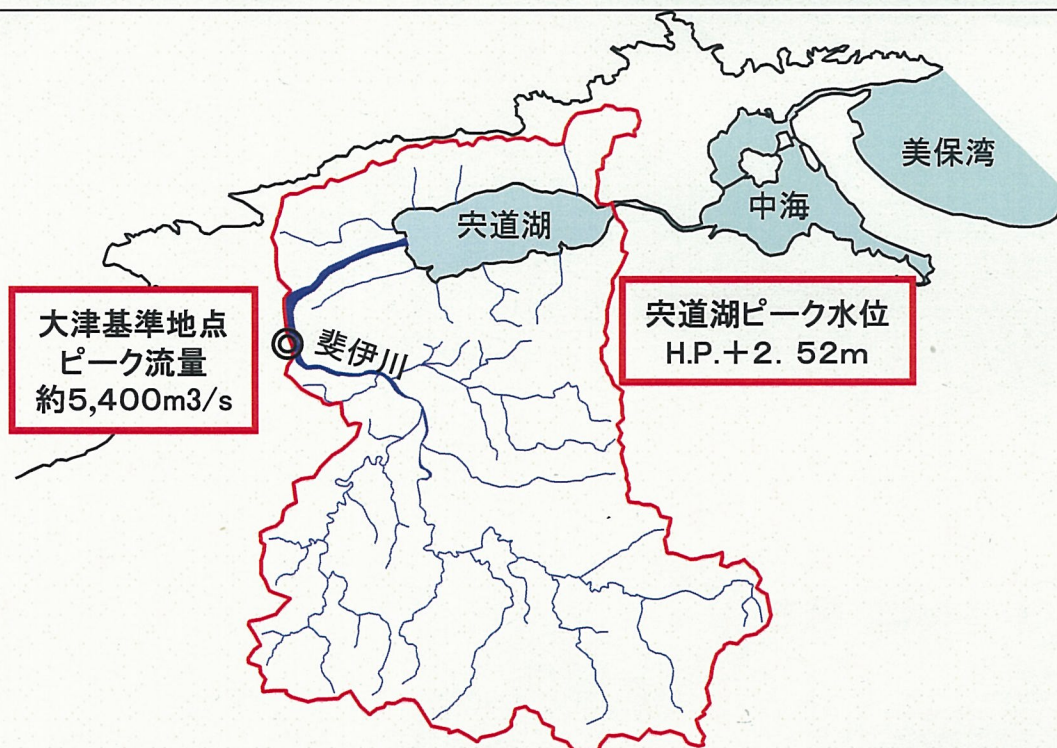
～もし、新潟豪雨が斐伊川流域で発生したら～

- ・今回の7月の豪雨は斐伊川で昭和47年に経験したものと同様の梅雨期の豪雨でした。
- ・試算の結果、昭和47年7月の斐伊川の洪水並となる宍道湖水位(H.P.+2.5m)が再現される可能性があります。

【試算条件】

流域面積が信濃川下流流域(約1,410km²)、斐伊川流域(約1,320km²)とほぼ同じであることから信濃川流域平均雨量を斐伊川流域に以下の条件で当てはめて試算を実施。

- ・降雨量の時間変化: 信濃川下流流域の平均雨量をもとに算定
- ・雨の降り方: 昭和47年7月洪水時の斐伊川流域での降雨分布を想定



※なお、この計算結果は、速報値データを基に試算したものであり、今後の調査により数値が変わることがあります。